

運営委員会だより

運営委員 須田章七郎

年に4回発行されている「育ちと学び」が出来上がるまでの様子をお伝えします。

運営委員会は毎月第1と第3の金曜日、14時30分から16時30分までの2時間ほど行います。前半は各委員が関わっている活動の報告が続き、特に県教育委員会の傍聴報告には活発な意見交換が行われます。また、最近では活動の土台となる財政問題は頭の痛い課題となっており、逼迫した財政状況が報告されるたびに会員を増やさなくてはという話が続きます。会員の皆様にもお知り合いに入会を勧めていただけたら幸いです。

いよいよ協議に入り、会報の編集企画が示されます。「すなっぷ」は教育現場をつなぐ大事な企画ですが、毎回一番頭を悩ましています。「〇〇高校の〇〇先生が環境問題の授業実践をしているようです」「〇〇新聞に高校生の活動が紹介されていた」など、運営委員が集めたさまざまな情報を元に企画案が練られ、学校などに取材を申し込みます。今号では幸いにも県立玉村高校に取材を受け入れていただきました。許可が得られると3~4人で取材をします。取材後は記憶や感動が冷めないうちに原稿づくりが始まります。生き生きとした児童生徒の姿を伝えるよう努力していますが、時には個人情報の関係で写真の掲載にも苦勞することがあります。

企画会議に出た記事は編集担当の倉林さんにメールで送られます。そしてここから倉林さんの多忙な日が続きます。通称、倉林工房と言われてはいますが、予定のページを超えそうになると見事に編集したり、時には得意のカットを入れたりと自由自在にこなしていきます。2020年から委員になった大山さんも編集に参加して倉林さんを助けています。編集されたものはメールで各委員に送られ、校正作業に入ります。

校正でいつもの的確な指摘をしてくれたのは内藤さん（現在は共同研究者）ですが、大山さんの校正も的確です。何人かの目が入っていますが、それでもミスを見落とすこともあります。

印刷が出来上がると、封筒に宛名のシールを貼ります。会費が未納の人には赤い線が入っています。活動の基盤となるので宜しくお願いします。

嬉しいのは会員から感想が書かれたハガキが届くことです。皆さん元気が出ます。

こうして会員のみなさんに届けられるのですが、発行後には合評会を行い、記事の内容を振り返り、次号へとつなげています。

さて、今号の出来具合はいかがでしたでしょうか。皆様からの、批判を含めた率直なご意見をお待ちしています。

今後の主な予定

- | | |
|--------------------|---------------------------------------|
| 5月10日（金）13時～ | スタジイ楽書会 |
| 5月11日（土）11時～14時30分 | 自由画ひろば寺子屋（要予約） |
| 5月17日（金）14時～ | 原発と自然エネルギー研究部会 |
| 5月24日（金）13時～ | スタジイ楽書会 |
| 5月25日（土）14時～ | 近現代史ゼミ（内藤真治講師：前橋市総合福祉会館） |
| 6月7日（金）13時～ | スタジイ楽書会 |
| 6月8日（土）13時30分～ | 第15回ぐんま教育文化フォーラム総会
（群馬県教育会館3F中会議室） |